

■ シンボル・プロジェクトと取組の展開方向 (V章)

(注) ◎ プロジェクトの主要関係項目 ○ プロジェクトの関連項目

展開方向	空間像					社会経済像							人間像						
	1 森・川・里	2 景観	3 集落 保全	4 エネルギー	5 都市 空間	6 フード バリュー チェーン	7 ツーリズム	8 製品・ サービス	9 シリ丹 エコシステム	9 シリ丹 起業	10 ワーク スタイル	11 食農 人材	12 もりびと	13 ソーシャル・ インクルージョン	14 創造 都市・農村	15 グローバル 教育	16 キッズ・ ファースト	17 関係人口、 移住・環流	18 次世代 コミュニティ
シンボル・プロジェクト																			
☆ アクティブ・フォレスト・プロジェクト 丹波の森づくりの次世代への継承を目的とした住民参加型の取組として推進。多様な主体が連携し、里山(森林)整備や森林管理、資源循環、希少生物保護、環境学習、もりびと育成等を進める。里山の情報発信を強化し、その見える化を図ることで、里山に入る人を増やしていく	◎																		
☆ 持続可能なコミュニティ・プロジェクト モデル・コミュニティにおいて、集落、農地、里山の空間・ストック管理と集落運営の仕組みを刷新。空間・ストックを有効活用し、新たな事業・サービスの創出にも取り組む。関係人口等新たな担い手の発掘・育成に向け、仮想コミュニティの構築や新たなコミュニティ・ルールの形成を進める			◎								○		○	○			○	○	
☆ まちの拠点創造プロジェクト 丹波地域の中心市街地(柏原地区等)において、まちの交流ゾーンとしての求心力向上に向け、多拠点居住やテレワーク等新たな暮らし方、働き方にも対応した複合的な都市機能整備を官民共同で推進					○										○				○
☆ たんばスマート農林業特区プロジェクト ブランド農産物、丹波産木材の生産・維持拡大に向け、効率化、省力・軽労化を進めるスマート技術の確立を図るとともに、技術活用の仕組みづくり(協議会の結成、規制緩和の活用等)を進め、域内へのスマート農林業の普及拡大をめざす						○													
☆ たんばフードバレー・プロジェクト 域内・近隣地域を中心に、企画開発、生産、加工・流通、販売、飲食、観光部門等の事業者間の連携を促し、ブランド農産物の高付加価値化や新たな食加工品の開発・販売を進める。生産者・事業者等を対象に、相談会・講座の開設や新商品の試作・試行的販売支援等を実施						○		○				○							
☆ 食文化ツーリズム・プロジェクト ゲストハウス、農家民宿等を、郷土料理と多彩なコト体験が楽しめる「たんばオーベルジュ」として一体的にプロモーションし、利用促進を図る。生産者と飲食・観光事業者等の連携により、新しい食材、料理、料理法の開発に乗り出すとともに、食にまつわるストーリーの発掘、発信にあたる						○	○	○				○							
☆ たんば恐竜(DMO)構想推進プロジェクト 恐竜化石関連施設群が連なる篠山層群エリアを我が国有数の恐竜学習・アミューズメントゾーンとするため、体験・学習プログラムの開発、ツーリズムの造成、グッズの開発等に取り組む。発信力強化に向け、事務局の法人化(DMO化)、専門人材の登用、サポーターの拡大等を進める							○	○											
☆ シリ丹バレー構想プロジェクト 協議会の設立や人材バンク(メンター登録制度)の創設等を通じて産官学民のネットワークの形成を図り、地域産業のDX化を推進。起業志望者に対しノウハウ習得や資金調達等の面で支援するとともに、起業志望者・起業家間の交流・連携を促進。新たな起業スペースの発掘にもあたる								○	○	○			○	○					
☆ 集落文化発掘・体験プロジェクト 集落文化の継承・発展に向け集落・地区間の連携を促進するとともに、集落文化への理解を深めるため、子どもたち向けの体験プログラムや、関係人口等を対象としたコト体験ツーリズム、インターンシップなどを実施															○				
☆ たんばユース躍動プロジェクト 子どもたちが縄文時代の自給自足の暮らしや文化を体験し、生きる力を学ぶ「丹波縄文の森塾」のアドバンスドコースを創設。中高生等を対象に、自然体験を通じ自然とともに暮らしてきた先人の知恵やスキルを学び、ふるさとの風土への理解を深めることのできる機会を提供																	○		
☆ たんばスタイル(たんば暮らし)・プロジェクト 集落・地区単位の移住情報の発信を進めるとともに、まちづくり施設や農家民宿等の情報交流拠点化を推進。家屋、生活物資・サービス、移動手段等をシェアできる仕組みも構築。きめ細かな地域のしごと情報を提供し、「ジョブ型移住」を推進											○	○	○		○			○	○
☆ スマートコミュニティ・プロジェクト 暮らしやすい地域社会の実現に向けたスマート技術導入のあり方について検討会を立ち上げ調査研究を進める。検討会での提案をもとに、モデル・コミュニティで安全・安心、移動支援、エネルギー自立、買い物支援等に係るスマート技術の実証実験を行い、技術導入の可能性、効果を探る				○				○						○					○